

研究・調査報告書

報告書番号	担当
81	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Prevalence and psychiatric correlates of pain interference among men and women in the general population. 一般集団男女間における痛みの有病率と精神疾患との相関	
執筆者	
Barry DT, Pilver C, Potenza MN, Desai RA.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Psychiatr Res. 2012 Jan;46(1):118-27.	
キーワード	
痛みのレベル、精神疾患、アルコールの乱用、アルコール依存、薬物の乱用、薬物依存	
要 旨	
<p>目的： 成人男女の標準サンプルのうち、痛みのレベルと精神疾患の関連を調べた。</p> <p>方法： カイ二乗検定および多項式のロジスティック回帰分析を用い、アルコールおよびアルコールに関連する病気に関して全国疫学調査から得られたデータ…42,750人の成人が回答（48%男性; 52%女性）…を解析した。対象者を苦痛の度合いにより3群に分類した。（無痛または軽度の痛み群[NPI]、中等度の痛み群[MPI]、激しい痛み群[SPI]）。</p> <p>結果： 男性の回答者に比べ女性の回答者は、中等度の痛み群($p<0.001$)か、激しい痛み群($p<0.001$)であることが多かった。男女ともに痛みの程度は過去 1年間のAxis Iもしくは過去のAxis IIの精神病既往と関連していた。特に中等度もしくは激しい痛み群で最大のオッズ比が観察された。女性と比較し、男性では中等度の痛み群とアルコールの乱用もしくはアルコール依存との関連が強かった（オッズ比= 1.61、$P < 0.05$）。また、男性と比較し、女性では激しい痛み群と薬物の乱用もしくは薬物依存との関連が強かった（オッズ比= 0.57、$p < 0.05$）。</p> <p>結論： 痛みのレベルはAxis I・Axis IIの精神病と関連していた。メンタルヘルスの予防と治療戦略の開発を進めるためには、痛みの程度の違いとそれに伴い生じる薬物関連障害のパターンについて、男女間で差があることを考慮する必要があるだろう。</p>	